



築野 富美

TSUNO Fumi

築野食品工業
代表取締役

音楽で分かち合うお米の夢



私は音楽が大好きです。会社の催事、学会、国際会議と、あらゆる催し物で余興を求められるたびに、会議の事前準備がおろそかになってしまうほど、音楽による余興の準備に熱中してしまいます。

ふざけているように思われるかもしれませんが、振り返ると、このような活動が、和歌山の田舎にある中小企業が世界で少しでも認めていただけるようになった一助になっているのではないかと思います。

弊社は米ぬかの高度有効利用を推進する事業を行っております。

私は24歳で正式に入社しました。そして2人の娘に恵まれましたが、仕事が楽しくて辞めることができなかったので、上の子は父(亡き創業者)、下の子は母に面倒をみてもらいました。

しかし、2人の子どもが音楽教室に通う際には、私の同行・支援・指導が必要と思ひ、この分野のみ私のかかわりで進みました。土日もほぼ返上して、かなりタイトなスケジュールをこなしました。

娘は小学校6年生になるころには、目標としていた各国の雰囲気を出した曲を自己

満足的にはありませんが制作できるようになっていました。

作曲した音楽を取引先であるタイ、アメリカ、インドネシアの方々に披露すると、とても喜ばれ、たくさんの友人ができました。国際交流に必要なのは、語学よりも音楽だ!と決めつけるに至ったほどの出来事でした。

話はさかのぼりますが、私の仕事人生は、大学入学後、父の海外出張のカバン持ちから始まりました。どこへ行っても日本人の女性が仕事で回ることの珍しさで親切な対応で迎えられ、たくさん勉強をすることができました。父から「人のやらないことをしなさい!」と指示を受け、医薬品原料を製薬会社に販売するという『薬売りの少女』のような立場で活動をしていました。米ぬかからこんな医薬品原料が抽出・製造できるのかと珍しがられ、「お米の価値は無限だね」と評価を受けることができました。

安い中国品の出現によって、非常に苦しい状態に陥ったことがあります。最も苦しかった約20年前、国内外へ放浪の旅に出た今後の可能性を探りましたが、その折に「米からの宝物には、まだまだ価値が

見いだせる」と励まされ、国際シンポジウム“コメと疾病予防”の開催を決意しました。組織委員の先生方の力により、米ぬか由来の機能性成分のすべてが世界的に注目されるようになり、米の研究が大きく前進しました。

2018年に行われた第3回国際シンポジウム“コメとグローバルヘルズ”の懇親会では、周囲の反対をおしきって“*We are the World*”を世界中からの参加者を巻き込んで合唱しました。米という同じ目標に向かう研究者たちの絆が、音楽を通してさらに深まった瞬間でした。こんな学会はこれまで無かったと評価いただきました。

米ぬかというたった一つの小さな産物の高度利用を推進することが弊社の主な事業となっていますが、この世界が持つ夢、可能性への追求努力の価値はどんなものにも負けない大きなものであると確信しています。

これからも国内外共通の宝物になるよう、お米の夢を音楽に乗せて発信し続けたいと思っています。

